明日へ向かって

第３学年　　学年だより
令和５年　１１月２９日
第５０号

応用力養成期終盤 → スピードを上げる

「明日へ向かって」第４９号で「これからのテスト感覚は、入試を想定したものにチェンジしていく」という意味の説明をしました。今後の受験対策は以下のようにまとめることができるでしょう。

□三年生でこれから学習する授業内容□

（１）授業中になんとか理解する。
→分からなければ先送りせず、その日のうちに質問するなどして必ずクリアする。

その日の学習、その日のうちに！

（２）プラクティスは自分で量をこなす。
→例題、練習問題、演習、ドリル等は量をこなせ。家に帰ってその日の学習内容が実際使えるか必ず試す。

その日の学習、使えるように！

■応用力養成期終盤の受験対策■

（１）テストの感覚を変える。
→できる簡単な問題を確実にクリアして、着実に得点を積み上げ、合格点に達すれば良い。

100 点意識より合格点到達の意識！

（２）テスト形式の問題を多用する。
→できるだけ広範囲の問題に手をつける必要がある。そのためにはテスト形式問題が便利。

入試を想定した勉強に切り替え！

次にやるのは、模試を除けば「入試本番」のテストだから

テスト形式の問題にどんどん慣れる

いかに簡単な問題でも、それに時間をかけていたら「得点の積み上げ」ができなくなる。
「簡単でしかもすぐに解けそうな問題」を正確に速く解く。そして「時間は多少かかりそうだが、どうやら解けそうな問題」に早く着手できるようにする。

時間のかけかたのコツ
初答の正答率を上げるコツ

テスト形式の問題をこなす

スピード感を身につける

これを「繰り返す」ことでコツをつかみスピード感を養う

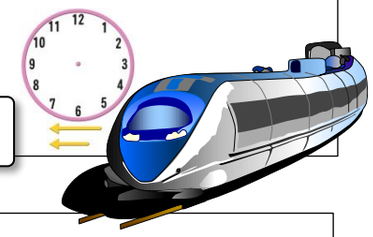
広範囲の問題を常に相手にする　～応用力養成期（終盤）の勉強の実際～

テスト形式の問題をやる

同じ問題を、時間をおいて再度やってもよい。
とにかく「量」をこなして、「テストを解く」ということに慣れ、「テストを攻略する」という行為そのものの精度とスピードを上げていく。

解答用紙はコピーしておく

必ず時間を計って問題を解く



・間違った問題 ・迷った問題

その単元の練習問題をやる

練習問題をやっても、解説を読んでも分からなかったら

絶対質問！！！

自分でまた一から教科書や参考書を開いて見直し、もう一度理解しなおす時間はない！
わかる人だったら誰でもいい。友達、先生、親兄弟、塾の先生、とにかくわかる人に聞いて理解する方法でクリアする。
一人でうんうんうなっている時間はムダです！

その合間にやる

- 漢字練習
- 単語の暗記
- 計算演習

基礎問題の精度を上げる

いつでもどこでもできる

- 単語帳の活用
- 薄くて小さいドリル

再びテスト形式の問題をやる

過去問を後生大事にとってある人は……

- なんで過去問をやるのか。それは、その学校の出題傾向が分かるから。じゃあ聞くが、だったらなんで過去問を大事に取ってあるのか？
- 一日も早くその学校の出題傾向を捉えて、できない問題を明らかにし、対策を練らなければならないのではないのか？
- それに、総仕上げ期に「よーし、じゃあ力試しに過去問様を！」なんて考えは百害あって一利なし！
- その過去問ができれば慢心するし、できなければショックを受ける。総仕上げ期こそ、最も基礎基本、ベーシックな内容のていねいなつぶしをやるべきなのだ。そんな時に過去問で動揺してどうする？
- もう期末も終わったのだ。今の段階でその過去問に手も足も出ないようなら、志望校を変えたほうがいい。過去問やるのはいつ？今でしょ！

では、「応用力養成期（終盤）勉強法」の実際を見ていこう！

期末が終わったここからが勝負！

みんなでスクラム組んでいこう！

■私立推薦だからもう勉強は必要ないか？

答えは簡単。「私推薦で決める人ほど、勉強は必要」です。仮に私立推薦で決めて何もしなかったらどうなるか。高校に入るまでの３ヶ月もの間、どんどん知識が流出するのを、ただ放っておくことになります。人間は忘れる動物なのです。

高校に入ったら、すぐにテストがあります。実力診断テスト、クラス分けテスト、教科ごとの小テスト。一般受験のためギリまで勉強を続けていた人と比べて、高校のスタートダッシュで差がつくのは明らかです。

高校のスタートダッシュでの差は、残念ながら簡単には埋まりません。なぜ？　そりゃそうです。試験を経て入学させる以上、レベルがそろうからです。アイドリング状態を保つ難しさは、実は私推薦組にああるわけです。

■皆、１００日後には１年生

就職する人だって、進学する人だって、みんなまた１年生になります。

今は勉強が大切でしょう。これは仕方がないことです。「勉強さえできればいいのか？」なんて、キレイゴトを言うつもりは毛頭ありません。得点能力は最後の最後の武器です。しかしこの時期、クラスメートや学年のみんなと過ごすこの時間を切り捨てた者に、新１年生になってからの成功はあり得ません。全員でこの時期を、力を合わせて乗り越える。これができてこそ、達成感を味わえるのです。

■今こそ「One for all,all for one.」を地でいく

あの運動会を、あの合唱コンクールを作り上げたみなさんに、できないわけはありません。今こそ普段の生活を温かく落ち着いたものにして、一日一日を着実に生きるのです。ここからが勝負！　この学年の最後の仕上げの時だ！　ここを外したら、「画龍点睛を欠く」そのままでしょう。みんなでスクラム組んで、みんなで乗り切りましょう！

スピードを上げるためのヒント

必ず Time を計ってやる

決められた時間の中で、**とにかく自分のイメージ通りに問題が解けるように**と考えてテスト形式の問題をこなすことが大切です。

- 「この問題はあとだ！」
- 「この問題は、多少時間を使っても今、解いちゃうべき！」
- 「この問題は時間が余ったら着手する」などなどが、

問題を数多く解いているうちに、さくさくと判断できるようになってきます。そのためには Time を決めてやることです。

とにかく「解く」「書く」という作業そのものに慣れる。これが応用力養成期終盤にやるべきことです。

テストを解くパターンを身につける

1 最初の３分ですべての問題に目を通し、分類する

→最初のうちは、自分なりに分類マークを付けてもよい。

分類マークの例		
	○	○＝簡単で時間もかからず、しかも「解けるな！」と思う問題。
	△	△＝「解けそうだ」と思うが、時間がかかりそうな問題。
	×	×＝パッと見て解けそうにない、または、解けたとしても正解かどうか自信がない問題

2 できる問題から次々につぶす

注意

＊問題をよく読み、初答を大切にする
＊計算の途中式（筆算、他）は絶対に残しておく
→あとで見直すときに有効

3 ○△をつぶしたところで「機械的見直し」を入れる

- 「記号で」と書いてある問題に文章で答えていることはないか
- 句読点、ピリオドなどが落ちてないか
- 解答欄を間違えてる、ズレてるということはないか
- 漢字の「止め」「はね」などチェック
- 計算の途中式（筆算、他）を見直す

マークシートの記入には特に注意しよう

4 今度は「出題順に」○△問題の見直しをする

ここまでで合格点（目標点）に達することを考える

5 残りの時間があれば、×の問題をやる

なぜテスト形式をたくさんやるか

テスト１枚は、広い範囲から問題をチョイスするが全ての単元を１枚に盛り込むことができません。数をこなすことで、全ての単元を網羅することが可能になってきます。また、数をこなすと、出題されやすい問題とそうでないものが読めてきます。

何をいつやるか

頭が冴えてる時に時間のかかる問題をやる

頭が冴えている時に計算問題をミスしないのは当たり前のことです。そんな時間の無駄は避けましょう。

頭の冴えている時は、人によって様々です。「起きたばかりの午前中」が冴えている人もいれば、「夕飯も終わってお風呂に入ったあと」が冴えている人もいます。

いずれにしても、その「冴えているとき」に時間のかかる間違った問題や難しい問題をやると良いです。

作業は疲れている時にこそやる

「漢字ドリル」「計算ドリル」「単語ドリル」など、作業的なものこそ疲れた時に。「え～っ？」とうんざり顔が浮かびますが、疲れていても反射的にできるようになるのがミソ。大事なのは、時間を決めてやることです。調子がいいからと、これを何時間もやるようなことは避けましょう。短時間でもよいからルーティンワーク化することです。